

CDI 中国「大健康」月報

(第1号:2023年4月1日~8月20日)

中国における「大健康」産業とは、医療を中核としつつも、健康食品・サプリメントや健康診断・生活指導から、リハビリ、高齢者向け商品・サービス、スポーツ・レジャーまで、まさに生老病死に関わる全ての領域を対象にした幅広い概念を指す。CDI 中国「大健康」月報では、日本・中国間の「大健康」業界における交流促進に資する情報を、毎月提供していく。読者の皆様の、当該産業の理解を進める一助となれば幸いである。

今月のトップニュース

医療業界の腐敗取り締まり強化

経済観察報によると、不正のリベートによる癒着腐敗や医薬・医療製品の価格高騰に歯止めをかけるため、政府は、2023年8月以来、数百名以上の病院や医薬企業の管理層を調査している。中には、身柄を拘束された者も出ていることから、医療業界の学術セミナーの取り消しも相次ぎ(下図左側参照)、MRの病院への立ち入り制限する医療機関も出始めている(下図右側参照)。



医薬品

創薬ベンチャーの資金調達が相次ぐ

智薬投によると、2023年7月の1か月間において、20社の創薬ベンチャーが資金調達を実施、総額は35億元(約700億円)以上にのぼった。分野としては、AI医薬品、放射性医薬品、CAR-NK細胞製品、マイグラソーム(migrasome)革新的医薬品、アンチセンスオリゴヌクレオチド(ASO)医薬品、低分子、抗体等が挙げられる。

なお、今年上半期全体では、107社が113件の資金調達を実施している。

ツムラ、今年4月に買収した中国漢方薬企業の持分を譲渡

ツムラは、今年5月、上海合弁会社の平安津村の名義で、陝西省宝鶏市の漢方薬メーカー、陝西紫光辰濟薬業の全株式を約2.5億元(約50億円)で買収したが、同年8月、「国家政策・関連法規等に対する解釈の相違があったことが判明した旨の連絡を受け」、持分を譲渡した。陝西紫光辰濟薬業の担当者も責任を問われ、中国政府より調査を受けたという。

医療機器

外資系メーカーによる中国生産／R&D 拠点建設の進行

中国政府は、国民が高品質の医療を受ける環境を整備しつつ、国内の製造・研究開発が世界水準に達し、ひいては中国企業が世界的な規模に成長することを後押ししてきた。その中で、外資系企業に対しては、国内で製造が難しい分野を「輸入製品」で補いつつ、製造可能なものは国内で製造、研究開発も中国で実施という形での貢献が期待されている。

深圳市南山区によると、5月23日、シーメンスは深セン市にハイエンド医療機器の研究開発及び製造拠点を作り、合計10億元（約200億円）を投資した。また、シーメンス・ヘルスケアと深圳市南山区人民政府は、戦略的協力に関する協定に調印した。当該協定によると、シーメンス・ヘルスケアは深圳市南山区に新たなハイエンド医療機器の研究開発・製造拠点を建設する予定となる。

他にも、7月10日、ペンタックス・メディカルは、上海で生産・R&D拠点を設置予定であることを明らかにした。また、7月20日には、ボストン・サイエンティフィックが、中国企業のAcotec（先瑞達）とOEM・CSO・R&Dでの業務提携を決定した。今後、中国本土で工場を建てる予定もあるようだ。

マイクロポート・グループ（中国脳・心臓・血管医療機器大手）による7社目のIPO

同社ホームページによると、5月、マイクロポート・グループに属するMicroPort Cardiac Rhythm（微創心律）は、香港でのIPOを開始した。本社・Endovastec（心脈医療）・CardioFlow Medtech（心通医療）、MedBot（微創ロボット）、MicroPort NeuroTech（微創脳科学）、Everpace（微創電生理）に継ぎ、当該グループの7社目のIPOとなった。

Mindray（邁瑞）グループ（中国検査・診断医療機器大手）のドイツ企業買収

同社ホームページによると、7月29日、Mindrayは香港とオランダの子会社を通じ、1.15億ユーロでドイツのIVD大手DiaSysの75%持ち分を買収した。

家庭用医療機器スタートアップ：Zdeerによる資金調達

日常生活の健康やヘルスケアを目指す漢方（灸・砭法・刮痧（カッサ）・マッサージ等）家庭用医療機器メーカーZdeer（中国語名「左点」）は、8月15日に数億元のBラウンド投資を獲得した。

Zdeerは武漢・深センにR&Dセンターを設置しており、河南省許昌市と湖南省長沙市には工場を有する。



（画像：刮痧・砭法・睡眠補助製品 出所：当社ウェブサイト）

健康食品・サプリメント

中国系メディカルフードメーカー、数億円単位の資金調達を実行

メディカルフードメーカー「瑪士撒拉(methuselah)」は、4月17日にA+ラウンドとして数億元の資金調達を実施した。当社は、糖尿病患者等向けのビスケット・麺類・オートミール・こんにやく製品を開発・生産している。(36kr:「(記事のタイトル)」)

メディカルフード、35品目が新規登録

2023年8月現在、129品目のメディカルフード(中国語:特医食品、英語:FSMP)が中国政府の登録認証を取得した。昨年末と比べると、35品目が新規登録となった。市場規模も2016年の25億元(約500億円)から2023年末の140億元(約2,800億円)まで増加すると中国栄養学会に予測された。

中国政府においてメディカルフードを管轄する国家市場管理監督総局特殊食品安全監督管理司は、2023年末には、『メディカルフード登録管理方法』の修正版を発行予定である。2021年10月の意見募集稿と比べると、申請時間短縮・希少疾患向けのメディカルフードに対する支援策・臨床試験の手続き調整などの新規内容も含まれている模様である。

養老産業(シルバー産業や介護)

住宅適老化改造ガイドラインが公表

中国中央政府の住宅都市農村開発部都市建設司は、高齢化に伴う都市部の高齢者向け住宅改修ニーズに対応するため、「都市部住宅適老化改造ガイドライン」を編集し、部屋全体・玄関・リビングルーム・ベッドルーム・お手洗い・キッチン・バルコニーも含む7種類47項目の改修のポイントを明らかにした。

政府によるシルバー産業カタログの公表

7月3日、中国産業情報化部・民政部・国家衛生健康委員会は「シルバー産業におけるスマート製品・サービスカタログ」を2年ぶりに公表した。

本カタログは、省レベルで選出したスマート・シルバー産業製品・サービスの年度カタログを元に作成されるもので、2018年以降2年毎に、作成されている。本カタログに掲載されることで、シルバー産業に関する入札において優位になる。

なお、もっとも多い種類は養老関連のITソリューションであり、約3割を占めている。

シルバー産業でもスタートアップへの投資相次ぐ

シルバー産業では、スタートアップの資金調達が相次いでいる。高齢者向けソリューション事業者上海天与科技は、2023年7月にシリーズBラウンドの資金調達を実施した(投中網:「天与养老」完成新一轮融资)。2023年4月には、同じ業界に属する小橙科技がAラウンドの資金調達を実施していた。(投資界:小橙完成近亿元A轮融资,推进医护养老数字化升级)

養老ソリューションとは、IT、通信などの技術で、養老業界、特にスマート養老(スマート養老とは、ネットワークで繋がる器具やインフラにかかわる養老サービスと定義されている)でよく利用されているものと指す。アプリやオンラインプラットフォームで、施設・

自宅でのシステムと各端末(アラーム・ミリ波レーダー・モニターなど)とつなぐソリューションが中心的である。

平安健康保険、パーキンソン・アルツハイマー病の早期発見サービスを展開

4月11日、平安健康保険と国立老年病臨床研究センターは、オンラインの検査プログラムとして、パーキンソン病やアルツハイマー病のリスクスクリーニング検査、質問表、オンラインレポート、および専門的な質問表を含む健康診断製品を発売すると発表した。オンラインでの相談と診断は、顧客のリスクを早期発見、早期介入することで、病気の進行を遅らせるのに役立つ。将来的には、パーキンソン病のリスクの高い顧客や疾患を持つ顧客を対象に、専門家の相談、服薬指導、定期的な規模の評価を含む健康管理サービスを提供する予定である。

以上

お問い合わせ先:

■ 嚴 偉 (CDI 上海オフィス)

□ Email: yan@cdi-china.com Mobile: +86-183-2198-1922

■ 崔 浩 (CDI 上海オフィス)

□ Email: hao.cui@cdi-china.com Mobile: +86-188-1736-2183

コーポレートディレクション 上海オフィス

コーポレートディレクション(CDI)は、1986年に米系コンサルティングファームBCGから10名が独立して設立した、日本初の独立系戦略コンサルティングファーム。2008年上海オフィス設立を皮切りに、現在ではアジア5箇所に現地拠点を有する。

上海オフィスでは、主に日本企業の中国参入戦略立案、戦略再構築、及び実行に伴う組織業務改革、中国企業との提携支援等を提供。一方で、中国企業をクライアントとした日系企業との提携支援も行っている。